

目的 19世紀後半の西洋の服飾絵画にみる服飾形態上の変化を比例分析により、その美的推移を考察してみる。

方法 研究資料としては、1800年代後半の服飾絵画を153点選び、それを10年単位で分類し、頭身、全身比、上体比、スカート比、顔点上下比等を比例的に分析してみた。算出方法としては黄金比、 $\sqrt{2}$ 矩形、正方形を基本に二次元的に分析し、数値を求めた。

結果 第1報では1600年～1900年代の300年間に於ける服飾形態の比例分析を試みたが、17・18世紀に比べ、19世紀はファッションの波状カーブが全般に大きくなり、服飾形態の多様な変化に比べ、比例上の変化は少なかった。頭身、スカート比、顔点上下比は各自似た変化の様相を示した。今回は更に服飾形態上の変化を詳細に調べるために、バウスの時代といわれた1870～1890年代の釣鐘型スカート形態の時代を分析してみた。

その結果、頭身については1870、1880年代は9頭身より7頭身が多く、1890年代は逆に9頭身が多かったが、全般には8.0、8.1頭身が多くみられた。上体比は1870、1880年代は5、 $\sqrt{5}$ が多く、1890年代はそれより低い値を示したが、全体には $\frac{1}{2}\sqrt{2} \sim \sqrt{2}$ の値が多かった。スカート比は $\sqrt{5}$ 、 $\sqrt{2}$ の値が全般に多く示され、1870～1880年代の数値は大きく変化した。全身比はスカート比と共通した様相を示した。顔点上下比はバラツキの値が示されたが、大きな変化はみられなかった。以上の結果、30年間の短期間ではあったが、バウス時代は頭身、スカート比、全身比において変化が眼についた。